「伏流水」140906

「さすがに甲州女」

長田周子（ひろこ）さんにジャカルタでお会いした。間もなく百歳になられるという。波乱万丈の激浪の中を渡ってこられた人とは思えない楚々とした婦人であった。

周子さんは甲府市西下条に富豪の娘として育ち、日本女子大学に進学。在学中セツルメント活動で知り合ったインドネシア王族の留学生マジッド・ウスマンさんと恋に落ち結婚。シティ・アミナ・ウスマンと名をかえ、１９３８年、ウスマン氏の故郷西スマトラで新婚生活に入った。

この時代、インドネシアはオランダの植民地だった。周子さんと夫ウスマンさんは帰国するや、後のインドネシア初代大統領スカルノや同じく副大統領のモハメッド・ハッタらと共に祖国独立運動に挺身する。

１９４１年１２月８日、日本が戦端を開くやオランダ植民地政府は日本人と結婚している廉でウスマンさんを逮捕、ジャワ島へ監禁。苦労の始まりであった。

この監禁は程なく今村均中将率いる日本軍の進攻によってオランダの植民地支配が破たんしたため、短期間で解けた。西スマトラに収監されていたスカルノとジャワ島に投獄されていたウスマンさんを入れ替える形で解放されたのである。

しかし、日本とウスマン一家との蜜月関係は長くは続かなかった。１９４３年東条内閣がインドネシアの資源を独占する目的で「大東亜政略指導大綱」なるものを発表したことで、独立運動の矛先が日本に向かうようになったためだ。大東亜共栄圏会議を機に日本政府に異議を唱えるためにウスマンさん夫妻は日本にやってきた。しかし結果は「幽閉」、以後一家は戦後まで東京と甲府に足止めされ、甲府空襲にも遭遇した。様々な不遇が重なって一家がインドネシアに還れたのは１９５１年。帰国の翌年、心労と病を得ていたウスマンさんは死んだ。

先月十一日ジャカルタで山梨県人会が設立された。車いすの周子さんはお嬢さんとハッタ元副大統領の三女ハリダ・ハッタ女史を伴って参加された。彼女はいま日本に里帰りしている。間もなく著書が出版されるという。楽しみだ。